

## 万博協会事務局との協議

昨日 10 日 11 時から、大阪府咲洲庁舎 45 階の会議室で、2025 年日本国際博覧会協会（万博協会）事務局と協議を行った。写真は会議室から一望できる大阪港や大阪都心部。梅田の高層ビル街、あべのハルカスなども見えた。天気がいいので、遠くまで眺めることができた。残念ながら、ここから万博会場予定地の夢洲は見るができなかった。



今回の協議は、前回 8 月 4 日協議で次のような発言を受けたものである。協会環境担当者は、大阪万博環境影響評価について「準備書作成の業者との契約を昨年 11 月に行い、その頃から現況調査を実施している。これは大阪市の了解を得ている」というものだ。昨年 11 月というと、15 日に万博協会から方法書が市長に提出され、22 日から広告・縦覧された頃である。私たち市民が方法書に対する意見書提出を準備していた頃だ。大阪市環境影響評価専門委員会の答申、市長意見が出される半年前のことだ。



9 月 30 日の大阪市環境局との協議を踏まえて、大阪市環境影響評価条例の手続きに反するのではないかと追及したが、曖昧な回答に終始して、堂々巡りになってしまった。愛知万博の「環境アセスメントに意見する市民の会」で活動したとき、当時の万博協会環境グループはもうすこし前向きに、アセスに取り組もうとしていたと思う。愛知万博アセスの成果を継承して、万博や SDGs にふさわしい万博アセスを実施する意気込みが感じられなかった。

コロナ危機のもとで、遅れている万博計画の現状について質問した。大阪万博はまだ正式に登録されていない。「仮免許」の状態が続いている。コロナ禍にあっても、登録申請書は変更していない。6 月開催の BIE 総会は延期され、12 月に開催される予定だ。そこで登録申請書が承認され、基本計画が公表される。基本計画は「総合的パッケージ」のようなもので、いま検討中なので跡地計画など具体的なことは言えない。大阪万博は SDGs を目標に掲げているが、SDGs を担当するスタッフは配置していない。

コロナ禍で「想定していない状況」にあり、準備が遅れていると事務局はいう。夢洲というリスクの大きい会場での開催について、あまり危機感が感じられなかった。本当に、コロナ禍のもと夢洲での 2025 年大阪・関西万博開催は大丈夫なのだろうか。日本経済新聞 10 月 21 日朝刊も、「イベント延期や遅れ相次ぐ 関西成長の目算に狂い」と伝えている。万博については、不安が募るのが会場建設費だ。コストが上昇し 2~3 割増えかねないとの懸念が出ているが、「音沙汰がない」と関経連会長も首をかしげる。現在はパビリオンのデザインなど会場の構想を練っている段階という。

(2020 年 11 月 11 日)